

ソフトウェア・バージョン: 1.02

Linux 用 インスト ール・ガイド

ドキュメント・リリース日 : 2015 年 8 月 (英語版) ソフトウェア・リリース日 : 2015 年 8 月 (英語版)

ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定 されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、 編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効 な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、 および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンス に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2012-2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe[™] は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX[®]は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。

- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。 https://softwaresupport.hp.com

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次の Webサイトから行なうことができます。https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do

または、HPソフトウェアサポートページの上部にあるthe Registerリンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけま す。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。https://softwaresupport.hp.com

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関 する詳細情報をご覧いただけます。 HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要 な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイ トでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jspです。

このPDF版オンラインヘルプについて

本ドキュメントはPDF版のオンラインヘルプです。このPDFは、ヘルプ情報から複数のトピックを簡単に印刷 したり、オンラインヘルプをPDF形式で閲覧できるようにするために提供されています。このコンテンツは本 来、オンラインヘルプとしてWebブラウザで閲覧することを想定して作成されているため、トピックによって は正しいフォーマットで表示されない場合があります。また、インタラクティブトピックの一部はこのPDF版 では提供されません。これらのトピックは、オンラインヘルプから正しく印刷することができます。

目次

| HP Integration Bridge の概要 | 5 |
|---------------------------------|----|
| ブリッジのダウンロードとインストール | 7 |
| Integration Bridge セキュリティ | 11 |
| 接続セットアップの管理 | 14 |
| エンドポイント資格情報マネージャ | 14 |
| ALM 資格情報の設定(エンドポイント資格情報マネージャ) | 14 |
| ALM 資格情報の設定(CLI) | 15 |
| ALM 接続用プロキシの設定 | 22 |
| Agile Manager 資格情報の設定 | 24 |
| Agile Manager 接続用プロキシの設定 | 25 |
| NextGen Synchronizer のプロキシ・サポート | 27 |
| Integration Bridge の開始と停止 | 28 |
| Integration Bridge のアンインストール/削除 | 29 |
| Integration Bridge のアップグレード | 31 |
| Integration Bridge のトラブルシューティング | 33 |
| ドキュメントのフィードバックを送信 | 35 |

HP Integration Bridge の概要

HP Integration Bridge は、カスタマ・システムにインストールされるソフトウェア・コンポーネント であり、Agile Manager とファイアウォールの背後にあるオンプレミス・アプリケーション(HP ALM など)の間を仲介して、両者の間の双方向通信を可能にします。

Integration Bridge をインストールする際には, Integration Bridge アプリケーションと, このアプリ ケーションを管理するサービスの両方をインストールします。サービスは, システムの起動時に Integration Bridge を自動的に開始する役割を果たします。

Integration Bridge のシステム要件

Integration Bridge をインストールするには、ご使用のシステムが次の最小システム要件を満たしていることを確認します。

| オペレーティング・システ ム | 次のいずれか: ・ Red Hat Enterprise Linux 6.2,6.3,6.4,または 6.5(64 ビット) ・ SUSE Linux Enterprise 11 サービス・パック 3 |
|-------------------|--|
| メモリ | 8 GB |
| 空きディスク容量 | 80 GB |

注:

- Integration Bridge は、ASCII 文字のみを名前に含むパスにインストールする必要があります。
- Integration Bridge を root ユーザとしてインストールした場合,インストールにはサービス も含まれます。

非 root ユーザを使用してブリッジをインストールした場合、root ユーザとして手動でサー ビスをインストールする必要があります。

Integration Bridge タスク

NextGen Synchronizer を使用するには, Integration Bridge をダウンロードしてインストールしてから, ALM に接続するための資格情報を定義します。 詳細については, 次を参照してください。

- 「ブリッジのダウンロードとインストール」(7ページ)
- 「接続セットアップの管理」(14ページ)

続いて, Agile Manager で同期リンクを作成します。詳細については, Agile Manager ヘルプセンター ([**ヘルプ] > [このページのヘルプ**])を参照してください。 必要に応じて、次のメンテナンス関連のトピックを参照してください。

- 「Integration Bridge セキュリティ」(11ページ)
- 「Integration Bridge の開始と停止」(28ページ)
- 「Integration Bridge のアンインストール/削除」(29ページ)
- 「Integration Bridge のアップグレード」(31ページ)
- 「Integration Bridge のトラブルシューティング」(33ページ)

Linux 用インストール・ガイド ブリッジのダウンロードとインストール

ブリッジのダウンロードとインス トール

Integration Bridge を Agile Manager からダウンロードし, Agile Manager と ALM の両方にアクセスで きるコンピュータにインストールします。ブリッジは両方のアプリケーションと通信して,2つの間 のデータ同期を可能にします。

ブリッジは複数インストールできます。これが必要なのは,異なるネットワーク上にある ALM プロ ジェクトと Agile Manager を同期する必要がある場合か,多数の同期リンクを定義していて,複数の ブリッジの間で負荷を分散したい場合です。

Agile Manager からのブリッジのダウンロード

ページ右上の [設定] ゆをクリックし, 左のナビゲーション・メニューで [統合] を選択します。 タブ: [統合] > [Synchronizer] 。このタブは, 統合管理者に対してのみ表示されます。

ヒント: 自分自身を統合管理者ロールに割り当てた場合は,ログアウトしてログインし直す必要はありません。そのままブラウザのウィンドウを更新して, [統合] 設定領域にアクセスします。

Integration Bridge のインストール時には, Integration Bridge ロールに割り当てられた Agile Manager ユーザの資格情報を入力する必要があります。Integration Bridge は, これらの資格情報を使用して Agile Manager にアクセスします。

[サイト] > [ユーザ] 設定ページで、ユーザを Integration Bridge ロールに割り当てます。

| インストール | 手順 |
|--|--|
| 初めてブリッジをインストール する場合 | チェックリストで,第2ステップのリンクをクリックして,使 用しているオペレーティング・システムに対応するブリッジを ダウンロードします。 |
| 追加のブリッジをインストール するか,アップグレードを実行 する場合 | [その他のアクション] > [Integration Bridge のダウンロー ド] > [Linux 用] を選択します。 |

[統合] > [Synchronizer 設定] ページで,次のいずれかを実行します。

Integration Bridge のインストール

 ブリッジをインストールするコンピュータで、ダウンロードした.zip ファイルを展開します (hp-integration-bridge-linux.zip)。この zip ファイルは、名前に英字のみを含むパスに展開す る必要があります。 **ヒント:** zip ファイルに含まれる『HP Integration Bridge インストール・ガイド』のイン ストール手順に従います。

- 2. hp-integration-bridge.bin ファイルを実行してインストールを開始します(CLIのみ)。
- インストール・プロセスの指示に従って、インストールを完了します。
 自分のワークスペースに接続するように設定されている、標準設定の値をそのまま受け入れます。

注:

- Integration Bridge は、ASCII 文字のみを名前に含み、連続したスペースを含まないパスにインストールする必要があります。
- [Modify an Existing Instance (既存のインスタンスの変更)]オプションを選択した場合,選択したブリッジはアンインストールされます。アンインストール後,もう 一度インストールを実行して,新しいインスタンスをインストールします。

ヒント:

- どのステップでも、quit と入力することによりインストールをキャンセルできます。
- インストール・プロセス内で前のステップに戻るには、back と入力します。

Linux 用インストール・ガイド ブリッジのダウンロードとインストール

• Agile Manager への接続を設定するステップで、次の手順を実行します。

| 設定 | 説明 | |
|---------------------------|--|--|
| ブリッジ名 | ブリッジの名前を定義します。 | |
| URL | Agile Manager サイトの URL。標準設定では、この URL はユーザ に応じて設定されています。 この URL は、統合管理者などへの電子メール通知と、ALM で URL 添付を作成する際に使用されます。 ▼ とント: この URL が電子メール受信者にとってアクセス可 能なものであり、かつALM クライアントからアクセス可 能なものであることを確認しておくことをお勧めしま す。 | |
| サイト ID (読み取り専用) | Agile Manager サイトのサイト ID。 サイト ID はAgile Manager の URL のテナント ID 属性にあります。 例: TENANTID=123456789 。 | |
| [ログイン名]と[パ スワード]フィールド | Integration Bridge ロールに割り当てられたユーザの資格情報を 入力します。 この資格情報を後から変更する場合は、「Agile Manager 資格情 報の設定」(24ページ)を参照してください。 | |
| プロキシ・サーバ | プロキシ・サーバを使用して Agile Manager にアクセスする場 合, [プロキシ サーバを使用] を選択します。 プロキシ・サーバの詳細と, プロキシ・サーバにログインする ユーザを入力します。 ○ ホスト: プロキシ・サーバの有効なアドレス ○ ポート: 有効なポート番号 (1~65535 の範囲の整数) 後からプロキシ資格情報を変更する場合の詳細については, 「Agile Manager 接続用プロキシの設定」(25ページ)を参照してく ださい。 | |

この情報を入力すると, Agile Manager への接続がテストされます。テストが失敗した場合, 接続設定を再入力するか,ブリッジのインストールを続行して,後で資格情報を変更できます。

• HP Integration Bridge サービスを設定するためのステップで、標準設定のデーモン名とポート 番号をそのまま使用するか、必要に応じて変更します。 デーモン名は ASCII 文字だけを含み、かつ角括弧([])を含まない必要があります。

- 4. インストールが完了したら, [Installation complete (インストール完了)] メッセージが表示 されます。Enterを押して, インストーラを終了します。
- 5. 非 root ユーザとしてインストールを実行した場合、root ユーザとして手動で Integration Bridge サービスをインストールする必要があります。

<ブリッジ・インストール・ディレクトリ>/product/bin/HPIntegrationBridge.sh install

6. Linux システムが GUI をサポートする場合,エンドポイント資格情報マネージャ・アプリケーションが自動的に開きます。ALM に接続するための資格情報を定義します。詳細については,「接続セットアップの管理」(14ページ)を参照してください。

注: リンクを設定する前に、ALM 資格情報を設定する必要があります。

資格情報マネージャが自動的に開かない場合,手動で開くか,CLIを使用して資格情報を 設定できます。詳細については,「<mark>接続セットアップの管理」(14ページ)</mark>を参照してく ださい。

Agile Manager では,新しいブリッジは数秒以内に認識されます。新しいブリッジが表示されない場合は,ページを更新します。そこから, [同期リンクの作成]をクリックして,リンクの作成を開始します。

参照情報

「Integration Bridge のアップグレード」(31ページ)

Integration Bridge セキュリティ

Integration Bridge が内部情報を公開することはありません。さらに, HP アプリケーションの JAR ファイルは HP によって署名されており,コードの出所を検証するときに役立ちます。

このトピックでは、次の内容について説明します。

- 「SSL 経由の通信」(11ページ)
- 「既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用した接続」(11ページ)
- 「パスワードの暗号化」(12ページ)
- 「セキュリティの推奨事項」(12ページ)

SSL 経由の通信

Integration Bridge と Agile Manager の間の通信は, SSL によってセキュリティ保護されています。

Bridge はインストール中またはインストール後に指定したユーザ資格情報を使用して, Agile Manager にログインします。詳細については, 「Agile Manager 資格情報の設定」(24ページ)を参照 してください。

既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用した接続

既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用して、セキュリティ保護されたAgile Manager または ALM サーバに接続する場合、証明書に対する信頼を確立する必要があります。

この信頼を確立するには,発行者の証明書を,次のディレクトリにある JRE のトラストストアにイン ポートします。

< Integration Bridge インストール・ディレクトリ>/product/util/3rd-party/jre1.7.0_ 51/jre/lib/security/

次の操作を実行します。

- 1. Agile Manager または ALM をブラウザ・ウィンドウで開き,証明書をブラウザからエクスポート して **server.cer** という名前のファイルに保存します。
- Integration Bridge マシンで, server.cer ファイルを < Integration Bridge インストール >/product/util/3rd-party/jre1.7.0_51/jre/bin ディレクトリに置きます。
- < Integration Bridge インストール > /product/util/3rd-party/jre1.7.0_51/jre/bin ディレクトリに ある keytool コマンドを使用して, server.cer ファイルを < Integration Bridge インストール > /product/util/3rd-party/jre1.7.0_51/jre/lib/security/cacerts ディレクトリにインポートしま す。

例:

```
./keytool -import -v -trustcacerts -alias tomcat -file s123.cer -
storepass changeit -keystore <Integration Bridge インストール
>/product/util/3rd-party/jre1.7.0_51/jre/lib/security/cacerts
```

Linux 用インストール・ガイド Integration Bridge セキュリティ

> **注:** 証明書チェーンの残りの部分に対して、それぞれ異なるエイリアスを使用しながら このコマンドを繰り返すことが必要な場合があります。

4. Integration Bridge を再起動します。

パスワードの暗号化

エンドポイントへの接続用パスワードは暗号化後にカスタマのマシンに保存されており, 資格情報を 別のマシンへ転送できないようになっています。

この暗号化方法では,インストール中にランダムに生成されたキーを使用します。ブリッジは,暗号 化方法として AES 128 を主に使用します。

セキュリティの推奨事項

| セキュリティの推奨事項 | |
|-------------------------------|--|
| ダウンロード・ソース | 不明なソースから Integration Bridge のインストール・ファイルや更新 プログラムをダウンロードしないでください。 |
| Integration Bridge マシン | 専用の堅牢なマシンに Integration Bridge をインストールします。 |
| Integration Bridge ネット ワーク | ブリッジのネットワークとターゲットのオンプレミス・アプリケー ションの間にファイアウォールを配置して、分離されたネットワーク に Integration Bridge をデプロイします。 • Agile Manager との通信用にポート 443 を開く必要があります。 |
| | • はかのオフラレミス・アラリケーションとの内部通信用に、必要に 応じて、追加のポートを開きます。 |
| Integration Bridge 権限 | Integration Bridge は、インストールしたユーザの権限を使用して動作 します。このユーザは、ブリッジとともにインストールされたすべて のフォルダとファイルに対する読み取り、書き込み、実行のすべての 権限を持ちます。 |
| | したがって, Integration Bridge は非 root ユーザとしてインストールす ることをお勧めします。この場合,次のようにします。 |
| | Integration Bridge を管理するための専用のユーザを作成すること をお勧めします。このユーザを使用してブリッジをインストール し、必要な場合はブリッジの起動を手動で管理します。 |
| | 2. 次のファイルを保護するために,その所有者を root に変更しま す。 |
| | < Integration Bridge インストール > /product/bin/HPIntegrationBridge.sh |

| セキュリティの推奨事項 | |
|-------------------------|---|
| | < Integration Bridge インストール > /product/conf/wrapper.properties |
| Integration Bridge ユーザ | Integration Bridge ロールが割り当てられたAgile Manager ユーザに は,その他のロールを割り当てないようにしてください。 |
| オンプレミス・アプリ ケーション・ユーザ | ALM ユーザなど, Agile Manager と通信するオンプレミス・アプリケー ション・ユーザ向けの権限を定義する場合,権限の範囲は具体的に必 要な操作に制限します。 |

接続セットアップの管理

資格情報は, Integration Bridge と Agile Manager または ALM の間でセキュアな双方向通信を提供する 目的で使用されます。

エンドポイント資格情報マネージャ

Linux システムが GUI をサポートする場合, Integration Bridge のインストール後に, エンドポイント 資格情報マネージャ・アプリケーションが自動的に開きます。このアプリケーションは, ALM 資格情 報の管理に使用されます。

注:

ALM 資格情報は、Agile Manager と ALM の間でエンティティを同期する前に設定し、後でこの 資格情報に変更があった場合に、設定を修正する必要があります。

エンドポイント資格情報マネージャ・アプリケーションが自動的に開かない場合や,後で再び資格情 報を変更する必要がある場合:

<ブリッジのインストール・ディレクトリ>/product/util/opb ディレクトリに移動します。

- システムがGUIをサポートする場合、次のスクリプトを実行して、アプリケーションを手動で開きます。credentials_mng_ui.sh
- それ以外の場合、次のスクリプトを実行し、コンソールを使用して資格情報を変更します。 credentials_mng_console.sh

本項の内容

ALM 資格情報の設定(エンドポイント資格 情報マネージャ)

この手順は, root ユーザまたは Integration Bridge をインストールしたユーザとして実行します。

GUI をサポートしない Linux マシンを使用する場合,コマンド・ライン・インタフェース(CLI)を使用して ALM の資格情報を設定します。

- Integration Bridge マシン上で、上記の説明に従ってエンドポイント資格情報マネージャ・アプリケーションを開きます。
- 2. 🕷 [新規] をクリックして、一連の資格情報を作成します。
- 3. 右側に資格情報を入力した後, [保存] 🗎をクリックします。

| フィールド | 説明 |
|----------|---|
| 表示名 | Agile Manager でのリンクの設定時に,この特定の資格情報レコードを 識別するために使用する名前。 |
| ユーザ | ALM に接続するユーザの名前。 |
| パスワード | ALM に接続するために使用するパスワード。 |
| パスワードの確認 | パスワードを再入力して確認します。 |

資格情報は暗号化されて,システムの<ブリッジ・インストール・ディレクトリ>/product/confフォ ルダにある credentialsStore.xml および bridgeCredentialStore.xml フォルダに格納されます。

- 資格情報レコードを更新するには、対象のレコードを選択して、右側で変更します。 □ [保存] を クリックします。
- 資格情報レコードを削除するには、対象のレコードを選択して、× [削除]をクリックします。

SiteMinder シングル・サインオン (SSO) による ALM への接続

SiteMinder シングル・サインオン(SSO)を使用して Integration Bridge を ALM に接続する必要がある場合,次の手順を実行します。

- 基本認証をサポートするように SiteMinder を設定します。
- SiteMinder 設定で CSSChecking パラメータを変更して、URL で文字 >, <, 'を使用可能にすること が必要な場合があります。そうしないと、NextGen Synchronizer から送信された通信メッセージを SiteMinder が拒否して、同期が失敗する可能性があります。

ALM 資格情報の設定(CLI)

credentials_mng_console コマンド・ライン・ツールを使用して, ALM への接続に使用される資格情報を設定します。

Agile Manager と ALM の間でエンティティを同期する前と、この資格情報に変更があった後で、ALM 資格情報を設定する必要があります。

注: 別の方法として,エンドポイント資格情報マネージャを使用して ALM 資格情報を設定す ることもできます。詳細については,「接続セットアップの管理」(14ページ)を参照してく ださい。

credentials_mng_console コマンド・ライン・ツールを開くには:

- 1. <ブリッジのインストール・ディレクトリ > /product/util/opb ディレクトリに移動します。
- 2. credentials_mng_console.sh ファイルを実行します。

Linux 用インストール・ガイド 接続セットアップの管理

credentials_mng_console ツールは,次のコマンドをサポートしています。

| 「list」 | <pre>[listEndpointTypes]</pre> | [[] listCredentialIds] |
|--------------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| [[] listEndpointTypeParams] | 「create」 | 「update」 |
| ſdelete」 | ſhelp」 | |

list

Integration Bridge から ALM への接続に利用可能な資格情報レコードを一覧表示します。

使用法

./credentials_mng_console.sh list -endpoint <エンドポイント・タイプ>

パラメータ

| -endpoint <エンドポイント・タ | ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です(オプショ |
|----------------------|--|
| イプ> | ン)。 |
| | このタイプ名は, 「listEndpointTypes」コマンドで利用可能な値 である必要があります。 |

サンプル結果

```
Endpoint type : sample-endpoint-type-11.5
ID : 9460b7
Name : sample credentials record
User : sample username
Password : *****
Parameters :
Key | Value
.....sample.secret.property | *****
sample.url.property | 123
```

listEndpointTypes

ALM バージョンなど, Integration Bridge にアクセスできる,利用可能な ALM エンドポイント・タイ プを一覧表示します。エンドポイントは,タイプ名でフィルタ処理できます。

使用法

./credentials_mng_console.sh listEndpointTypes -endpoint <エンドポイント・タイプ>

パラメータ

サンプル結果

Endpoint types :
1. alm

listCredentialIds

ALM 資格情報レコード ID と, 各資格情報 ID に関連する ALM エンドポイント・タイプをすべて一覧表示します。

使用法

./credentials_mng_console.sh listCredentialIds -endpoint <エンドポイント・タイプ>

パラメータ

| -endpoint <エンドポイント・タ | ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です(オプショ |
|----------------------|---|
| イプ> | ン)。 |
| | このタイプ名は, 「listEndpointTypes」 コマンドで利用可能な値 である必要があります。 |

サンプル結果

listEndpointTypeParams

資格情報の保存に必要なパラメータを ALM エンドポイント・タイプごとに一覧表示します。

使用法

./credentials_mng_console.sh listEndpointTypeParams -endpoint <エンドポイント・タ イプ>

パラメータ

| -endpoint <エンドポイント・タ | ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です(オプショ |
|----------------------|--|
| イプ> | ン)。 |
| | このタイプ名は, 「listEndpointTypes」コマンドで利用可能な値 である必要があります。 |

サンプル結果

Linux 用インストール・ガイド 接続セットアップの管理

```
Endpoint type specific parameters:

Parameter: sample.url.property

Label:Server URL

Description:URL address for sample server

Mandatory: true

Parameter: sample.secret.property

Label:Secret key

Description:Secret key for sample server

Mandatory: false
```

create

Integration Bridge から ALM にアクセスするための資格情報レコードを作成します。

使用法

```
./credentials_mng_console.sh create -file <データ・ファイルへのパス> -user <ユーザ
> -pass <PASSWORD> -endpoint <エンドポイント・タイプ> -name <資格情報レコード名
> -param <キー> <値> -param <キー> <値>
```

使用例 - 一般

```
./credentials_mng_console.sh create -user <ユーザ> -pass <パスワード> -
endpoint sample-endpoint-type-11.5 -name <資格情報名> -param
sample.url.property <パラメータ値> -param sample.url.property <パラメータ値>
```

使用例 - ALM の場合

```
./credentials_mng_console.sh create -user <ユーザ> -pass <パスワード> -
endpoint alm-11.5 -name <資格情報名>
```

パラメータ

| -file <ファイル > | プロパティ・ファイルからパラメータを読み取ります(オプショ ン)。 コンソールで指定されたパラメータは上書きされます。 |
|-------------------------|---|
| -user <ユーザ> | ユーザ名 |

| -pass <パスワード> | パスワード | |
|-----------------------------|--|--|
| -endpoint <エンドポイント・タ イプ> | ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です。 このタイプ名は, 「listEndpointTypes」 コマンドで利用可能な値 である必要があります。 | |
| -name <資格情報名> | 資格情報レコード名 | |
| -param <キー> <値> | カスタム・パラメータ(オプション) | |
| -replace | 既存のパラメータをすべて入力パラメータに置き換えます(オプ ション) | |

プロパティ・ファイルは、資格情報のプロパティを記述するテキスト・ファイルです。ファイルの形 式は次のとおりです。

```
endpoint = \langle x \rangle + \pi \langle x \rangle
```

name=<名前>

```
user=<ユーザ>
```

```
pass=<パスワード>
```

customParam1=value1

customParam2=value2

サンプル結果

endpoint=<エンドポイント・タイプ>

name=<名前>

customParam1=value1

customParam2=value2

Linux 用インストール・ガイド 接続セットアップの管理

update

Integration Bridge から ALM にアクセスするための既存の資格情報レコードを更新します。

使用法

./credentials_mng_console.sh update -user <ユーザ> -pass <パスワード> credentialsId <資格情報 ID> -endpoint <エンドポイント・タイプ> -param <キー> <値> -param <キー> <値> -replace

使用例

```
./credentials_mng_console.sh update -user <ユーザ> -pass <パスワード> -
credentialsId <資格情報 ID> -endpoint alm-11.5 -replace
```

パラメータ

| -file <ファイル > | プロパティ・ファイルからパラメータを読み取ります(オプショ ン)。 コンソールで指定されたパラメータは上書きされます。 | |
|-----------------------------|---|--|
| -user <ユーザ> | 新しいユーザ名 | |
| | ヒント: 名前の非 ASCII 文字の前にはエスケープ文字('または、)を置きます。 | |
| -pass <パスワード> | 新しいパスワード | |
| -credentialsId <資格情報 ID> | 更新する資格情報レコードの ID | |
| -endpoint <エンドポイント・タ イプ> | ALM バージョンなどの新しいエンドポイント名です。 このタイプ名は, 「listEndpointTypes」 コマンドで利用可能な値 である必要があります。 | |
| -param <キー> <値> | カスタム・パラメータ(オプション) | |
| -replace | 既存のパラメータをすべて入力パラメータに置き換えます(オプ ション) | |

Linux 用インストール・ガイド 接続セットアップの管理

delete

ALM 資格情報レコードを削除します。

注: 資格情報レコードからパラメータを単独で削除することはできません。資格情報レコード 全体を削除することのみできます。

使用法

./credentials_mng_console.sh delete -endpoint <エンドポイント・タイプ> - credentialsId <資格情報 ID>

パラメータ

| -endpoint <エンドポイント・タ | ALM バージョンなどのエンドポイント・タイプ名です。 | |
|----------------------------|--|--|
| 17> | このタイプ名は, 「listEndpointTypes」コマンドで利用可能な値 である必要があります。 | |
| -credentialId <資格情報 ID> | 資格情報レコード ID | |

help

Integration Bridge 用の ALM 資格情報の設定時に,現在のコマンドについてのヘルプを表示します。

使用法

./credentials_mng_console.sh help

ALM 接続用プロキシの設定

標準設定では, Integration Bridge と ALM との間の接続ではプロキシによる認証は行われません。プロキシを設定するには,次を実行します。

注:

この手順は, root ユーザまたは Integration Bridge をインストールしたユーザとして実行します。

- <Integration Bridge installation directory>/product/domain/alm/conf フォルダで, proxy.properties ファイルを開きます。
- プロキシを使用するには, setProxy の値を true に変更します。
 この値が false の場合,プロキシ設定は無視され,プロキシは使用されません。

- 3. プロキシ・ホストとポートの値を設定するには、次の手順を実行します。
 - a. proxyHost の値をプロキシの IP アドレスまたはサーバ名に変更します。
 - b. proxyPort の値を、プロキシで使用するポートに変更します。
 proxyHost を指定した場合、proxyPort の値も指定してください。

| 例 | |
|---|----------------------|
| | setProxy=true |
| | proxyHost=123.45.6.7 |
| | proxyPort=1234 |
| | proxyUser= |
| | proxyPass= |

- 4. プロキシで認証が必要な場合:
 - a. proxyUser の値をプロキシのユーザ名に変更します。
 - b. proxyPass の値をプロキシのパスワードに変更します。
 proxyUser の値を指定した場合, proxyPass の値も指定してください。

| 例 | |
|---|----------------------|
| | setProxy=true |
| | proxyHost=123.45.6.7 |
| | proxyPort=1234 |
| | proxyUser=MyUserName |
| | proxyPass=MyPassword |

- 5. proxy.properties ファイルを保存します。
- 6. Integration Bridge を再起動します。詳細については, 「Integration Bridge の開始と停止」(28 ページ)を参照してください。

ヒント: 認証が失敗した場合は, proxy.properties ファイルの内容に構文エラーや無効な値が ないことを確認してください。

Agile Manager 資格情報の設定

credentials_mng_console.bat コマンド・ライン・ツールを使用して, Agile Manager への接続に使用 される資格情報を設定します。

root ユーザまたは Integration Bridge をインストールしたユーザとして,次の手順を実行します。

- 1. <ブリッジのインストール・ディレクトリ > /product/util/opb ディレクトリに移動します。
- 2. bridgeAuthentication.sh ファイルを実行します。

注: Agile Manager 資格情報を設定するのは, Integration Bridge エージェントを最初にインストールした時点から資格情報に変更があった場合のみです。

bridgeAuthentication ツールは,次のコマンドをサポートしています。

```
「setAuth」(24ページ)
```

「help」(25ページ)

setAuth

Integration Bridge から Agile Manager に接続するための資格情報を設定します。

注: Agile Manager にログインするユーザには, Agile Manager の **Integration Bridge** ロールを 割り当てる必要があります。

セキュリティ上の理由から, Integration Bridge ユーザにはその他のロールを割り当てないようにします。

使用法

./bridgeAuthentication.sh setAuth -user <ユーザ> -pass <パスワード>

パラメータ

| -user <ユーザ名> | Agile Manager に接続するユーザの名前。 |
|---------------|-------------------------------|
| -pass <パスワード> | Agile Manager に接続するユーザのパスワード。 |
| -emptyPass | 空のパスワードを設定。 |

help

Integration Bridge 用の Agile Manager 資格情報の設定時に,現在のコマンドについてのヘルプを表示 します。

使用法

./bridgeAuthentication.sh help

Agile Manager 接続用プロキシの設定

proxyConfiguration コマンド・ライン・ツールを使用して, プロキシ・サーバを介して Agile Manager にアクセスするための資格情報を設定します。

- 1. <ブリッジのインストール・ディレクトリ > /product/util/opb ディレクトリに移動します。
- 2. proxyConfiguration.sh ファイルを実行します。

注: プロキシ・サーバ資格情報を設定するのは、Integration Bridge を最初にインストールした 時点から資格情報に変更があった場合のみです。 • 変更後には,必ず Integration Bridge を再起動します。詳細については, 「Integration Bridge の開始と停止」(28ページ)を参照してください。

proxyConfiguration ツールは,次のコマンドをサポートしています。

| 「setAddress」 | <pre>「removeProxyConfiguration 」</pre> |
|----------------|--|
| [setAuth] | ^r removeAuth」 |
| 「help」 (26ページ) | |

setAddress

プロキシ・サーバを介して Agile Manager にアクセスするためのホストとポートを設定します。

使用法

./proxyConfiguration.sh setAddress -host < ______ -port < ______ -port < ______ - >

パラメータ

-host くプロキシ・ホスト>

プロキシ・サーバのホストのアドレス。

| -port <プロキシ・ポート> | プロキシ・サーバのポート番号。 |
|------------------|-----------------|
| | |

removeProxyConfiguration

プロキシ・サーバを介さずに Agile Manager にアクセスするように Integration Bridge を設定します。

使用法

./proxyConfiguration.sh removeProxyConfiguration

setAuth

プロキシ・サーバを介して Agile Manager にアクセスする場合に,プロキシ・サーバに接続するための資格情報を保存します。

使用法

./proxyConfiguration.sh setAuth -user <ユーザ> -pass <パスワード>

パラメータ

| -user <ユーザ名> | プロキシ・サーバに接続するユーザの名前。 |
|---------------|-------------------------|
| -pass <パスワード> | プロキシ・サーバに接続するユーザのパスワード。 |

removeAuth

以前にプロキシ・サーバを介した Agile Manager への接続に使用された一連の資格情報を削除します。

使用法

./proxyConfiguration.sh removeAuth

help

プロキシ・サーバを介した Agile Manager へのアクセスの設定時に,現在のコマンドについてのヘル プを表示します。

使用法

./proxyConfiguration.sh help

NextGen Synchronizer のプロキシ・サポート

NextGen Synchronizer は次のタイプのプロキシ認証をサポートします。

| Integration Bridge と次の間 | | Agile Manager | ALM |
|-------------------------|------|---------------|--------------|
| 正方向 | 認証なし | \checkmark | \checkmark |
| | 基本認証 | \checkmark | \checkmark |
| 逆方向 | 認証なし | \checkmark | \checkmark |
| | 基本認証 | х | x |

注: NTLM 認証は, どのタイプのプロキシに対してもサポートされていません。

Integration Bridge の開始と停止

Integration Bridge サービスがインストールされている場合, Integration Bridge はシステムの起動時 に自動的に開始されます。

このトピックでは、ブリッジの起動を手動で管理する方法について説明します。

この手順は, root ユーザまたは Integration Bridge をインストールしたユーザとして実行します。

注:

Integration Bridge サービスは、通常は Integration Bridge インストールの一部としてインストールされますが、非 root ユーザとしてインストールを実行した場合は例外です。この場合、Integration Bridge サービスを root ユーザとして手動でインストールする必要があります。

<ブリッジ・インストール・ディレクトリ>/product/bin/HPIntegrationBridge.sh install

- Agile Manager が ALM などのオンプレミス・アプリケーションと通信するには、このブリッジが動作している必要があります。
- ALM プロジェクトをアップグレードした場合, ALM と Agile Manager の間のデータの同期 を継続するために、アップグレード後に手動でブリッジを再起動する必要があります。

HPIntegrationBridge コマンド・ライン・ツールを使用します。

- 1. <ブリッジのインストール・ディレクトリ > /product/bin ディレクトリに移動します。
- 2. HPIntegrationBridge.sh ファイルを実行します。

次のコマンドを使用します。

| タスク | コマンド |
|--------------------------------|----------------------------------|
| ブリッジの開始 | ./HPIntegrationBridge.sh start |
| ブリッジの停止 | ./HPIntegrationBridge.sh stop |
| ブリッジの再起動 | ./HPIntegrationBridge.sh restart |
| Integration Bridge サービスのインストール | ./HPIntegrationBridge.sh install |
| Integration Bridge サービスの削除 | ./HPIntegrationBridge.sh remove |

Integration Bridge のアンインストール/ 削除

ブリッジが不要になった場合や、アップグレードの前には、ブリッジをアンインストールします。

ブリッジが不要になった場合や,ブリッジを使用することがなくなった場合には,[リンク設定]ナ ビゲーション・ツリーからブリッジを削除します。

1. Agile Manager の [統合] > [^{1]} リンク設定] ページで, 左側にあるナビゲーション・ツリー を展開します。

ブリッジにリンクが設定されていないことを確認します。既存のリンクが存在する場合,削除 します。

ツリーでリンクを選択して、 [その他のアクション] > [削除]を選択します。

- Integration Bridge に関連するすべてのツール、フォルダ、ファイル(エンドポイント資格情報 マネージャなど)を閉じます。
- 3. 次の操作を実行します。

| タスク | 説明 |
|--|--|
| ブリッジのアンインストール | root ユーザとして, < Integration Bridge インストール・ディレクトリ > /install ディレクトリに移動し, hp-integration- bridge-uninstall スクリプトを実行します。 |
| | 注: root ユーザとしてアンインストールを実行することにより、Integration Bridge アプリケーションとIntegration Bridge サービスの両方を完全に削除することができます。 |
| | 関連する資格情報も削除する場合は,アンインストール処理 で,[資格情報の削除]を選択します。標準設定では,資格 情報は保持され,今後のインストールやアップグレードで使 用できます。 |
| Agile Manager ユーザ・イン タフェースからのブリッジの 削除(オプション) | Agile Manager で,ブリッジ名を選択して,コンテキスト・メ ニューから[ブリッジの削除]を選択するか, [その他のア クション] > [削除]を選択します。 |
| | 注意:ブリッジを復元する意図がない場合にのみ, ユーザ・インタフェースからブリッジを削除します。 |

| タスク | 説明 |
|-----|--|
| | NextGen Synchronizer から削除したブリッジは、まだ アンインストールしていない場合でも復元できません。 |

Integration Bridge をアンインストールすると, server-connection.conf ファイルでカスタマイズした プロパティは削除されます。

server-connection.conf ファイルの情報は, server-connection.bak ファイルにバックアップされま す。ブリッジのアップグレードなどの目的で, この情報を後で使用するには, バックアップ・ファイ ルの名前を変更して, 新しいインストール用のフォルダにコピーします。

詳細については, 「Integration Bridge のアップグレード」(31ページ)を参照してください。

Integration Bridge のアップグレード

次のいずれかの方法で Integration Bridge をアップグレードします。

- 「前のブリッジと同じサーバ上の既存のブリッジのアップグレード」(31ページ)
- 「Integration Bridgeのアップグレードと新しい場所へのインストール」(32ページ)

どちらのアップグレード方法でも、設定済みのエンドポイント資格情報は保持されます。

注: Integration Bridge が HTTPS を使用して Agile Manager または ALM と通信する場合,ブ リッジのアップグレード後に証明書を再インストールする必要があります。詳細について は,「既知の証明機関によって署名されていない証明書を使用した接続」(11ページ)を参照 してください。

前のブリッジと同じサーバ上の既存のブリッジのアップグレード

この手順では、アップグレードされたブリッジを既存のブリッジとして登録します。

- Integration Bridge をアンインストールします。詳細については、「Integration Bridge のアンイ ンストール/削除」(29ページ)を参照してください。アンインストール・ウィザードでは、[資 格情報の削除]を選択しないでください。
- 2. [統合] > [¹リンク設定] ページから, Integration Bridge の新しいバージョンをダウンロードします。
 「その他のアクション」、「Integration Bridge のダウンロード】、「Linux 用」を選択しま

[その他のアクション]> [Integration Bridge のダウンロード]> [Linux 用]を選択しま す。

- 3. ダウンロードした zip ファイル(**hp-integration-bridge-linux.zip**)を新しいフォルダに解凍しま す。
- 4. 前のインストールから新しいインストールに値をコピーします。次の操作を実行します。
 - a. 前のバージョンのインストール・ディレクトリで, /product/conf/server-connection.bak ファイルにアクセスします
 - b. 同時に開いたウィンドウで, Integration Bridge の新しいバージョンとともにダウンロードさ れる server-connection.conf ファイルを参照して,編集用に開きます。
 - c. 前のインストール・ファイルから agent.guid プロパティとその値をコピーして,新しい ファイルに付加します。新しいファイルを保存します。
- 新しくダウンロードされる hp-integration-bridge.binを実行して、インストールを開始します。 インストール中に、前のバージョンで使用したインストール・フォルダを選択します。 詳細については、「ブリッジのダウンロードとインストール」(7ページ)を参照してください。

Linux 用インストール・ガイド Integration Bridge のアップグレード

Integration Bridgeのアップグレードと新しい場所へのインストール

この手順では,アップグレードした Integration Bridge を前のバージョンと同じサーバ上の新しい ディレクトリか,まったく新しいマシン上の新しいディレクトリにインストールします。

- Integration Bridge をアンインストールします。詳細については、「Integration Bridge のアンイ ンストール/削除」(29ページ)を参照してください。アンインストール・ウィザードでは、[資 格情報の削除]を選択しないでください。
- [統合] > [¹リンク設定] ページから, Integration Bridge の新しいバージョンをダウンロードします。
 [その他のアクション] > [Integration Bridge のダウンロード] > [Linux 用] を選択します。
- 3. ダウンロードした zip ファイル (hp-integration-bridge-linux.zip) を新しいフォルダに解凍しま す。
- 前のインストールから新しいインストールにファイルと値をコピーします。次の操作を実行します。
 - a. 新しいバージョンをインストールするディレクトリに, product/conf というフォルダ構造を 作成します。
 - b. 前のバージョンのインストール・ディレクトリから,前の手順で作成した conf ディレクト リに,次のファイルをコピーします。
 - credentialsStore.xml
 - key.bin
 - c. 前のバージョンのインストール・ディレクトリで, /product/conf/server-connection.bak ファイルにアクセスします
 - d. 同時に開いたウィンドウで, Integration Bridge の新しいバージョンとともにダウンロードされる server-connection.conf ファイルを参照して, 編集用に開きます。
 - e. 前のインストール・ファイルから **agent.guid** プロパティとその値をコピーして,新しい ファイルに付加します。新しいファイルを保存します。
- 5. hp-integration-bridge.binを実行して、インストールを開始します。 インストール中に、新しいバージョンをインストールするディレクトリを選択します。 詳細については、「ブリッジのダウンロードとインストール」(7ページ)を参照してください。

Integration Bridge のトラブルシュー ティング

このトピックでは、次の各シナリオを取り上げます。

- 「インストール後にブリッジが認識されない」(33ページ)
- 「Agile Manager でブリッジ名が赤字で表示される」(33ページ)
- 「ブリッジを停止してから開始しても, Integration Bridge がオフラインのままである」(33ページ)
- 「Agile Manager でブリッジの接続ステータスが不明として表示される」(34ページ)
- 「ブリッジが Agile Manager または ALM にログインできない」(34ページ)
- •「「403」または「承認例外」エラーが発生する」(34ページ)
- 「Integration Bridge のインストール・プロセスで、古いものが残っていることが推定される」(34 ページ)

インストール後にブリッジが認識されない

インストールが完了した後に,ブリッジが Agile Manager の [統合] > [Synchronizer] または [リンク設定] ページに表示されない場合, [更新] をクリックするか,ブラウザのページを更新し ます。

- それでもブリッジが表示されない場合は、ブリッジが実行されていることを確認してください。 詳細については、「Integration Bridge の開始と停止」(28ページ)を参照してください。 Integration Bridge サービスは、ブリッジの起動を数回試行します。成功しなかった場合、アプリケーションがシャットダウンして、サービスが停止します。
- ブリッジが起動しない場合、<インストール・フォルダ>/product/log/controller/wrapper.log ファ イルの Drmi.server.port の値が利用可能なポートに設定されているかどうかを確認します。
- Integration Bridge サービスがブリッジの起動を試行したときに,定義されているポートが別のア プリケーションで使用中の場合,次のエラーがログ・ファイルに出力されます。

| wrapper ログ・ファイル内 | java.rmi.server.ExportException: Port already in use: <ポート> |
|---------------------|--|
| controller ログ・ファイル内 | java.rmi.NotBoundException: ControllerAPI |

Agile Manager でブリッジ名が赤字で表示される

Integration Bridge がダウンしている。Agile Manager で,ブリッジ名をクリックして,ブリッジが サーバにアクセスした最終時刻を確認します。

ブリッジを停止してから開始しても, Integration Bridge がオフラインのままである

Agile Manager でブリッジの接続ステータスが [オフライン] と表示される場合は、ブリッジを再起

Linux 用インストール・ガイド Integration Bridge のトラブルシューティング

動してみてください。詳細については, 「Integration Bridge の開始と停止」(28ページ)を参照してく ださい。

ブリッジがオフラインのままである場合,ブリッジ・ユーザの Agile Manager パスワードが期限切れ になっている可能性があります。

ブリッジが Agile Manager への接続に使用する資格情報を更新します。詳細については、「接続セットアップの管理」(14ページ)を参照してください。

Agile Manager でブリッジの接続ステータスが不明として表示される

Integration Bridge ログ・フォルダ(<ブリッジ・インストール・ディレクトリ >/product/log/controller)にある次のログ・ファイルをチェックしてください。

• controller.log

• wrapper.log

さらに、<ブリッジ・インストール・ディレクトリ>/product/log/<エンドポイント・タイプ名> ディレクトリにある<エンドポイント・タイプ名>.logファイルをチェックします。

ブリッジが Agile Manager または ALM にログインできない

エンドポイントに対して定義された資格情報に誤りの可能性があります。資格情報の確認または変更の詳細については,「接続セットアップの管理」(14ページ)を参照してください。

「403」または「承認例外」エラーが発生する

Integration Bridge から Agile Manager にアクセスしているユーザが Integration Bridge ロールで定義 されていません。

Agile Manager 設定領域([サイト] > [ユーザ])で,このユーザのロールを変更します。

注: セキュリティ上の理由から, Integration Bridge ユーザにはその他のロールを割り当てな いようにします。

Integration Bridge のインストール・プロセスで,古いものが残っていることが推定される

問題:Integration Bridge をアンインストールした後で、次にブリッジをインストールしようとする と、表示される標準設定の名前から、ブリッジがすでに存在することが推定されます。

原因:非 root ユーザでアンインストールを実行した可能性があります。

解決策:

- 表示される既存のブリッジは無視して、新しいブリッジをインストールします。
- Integration Bridge サービスのインストールで残された初期化スクリプトを見つけて削除します。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご 連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリック することで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on Linux 用インストール・ガイド (Agile Manager 1.02)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの 新規メッセージに貼り付け、SW-Doc@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。



